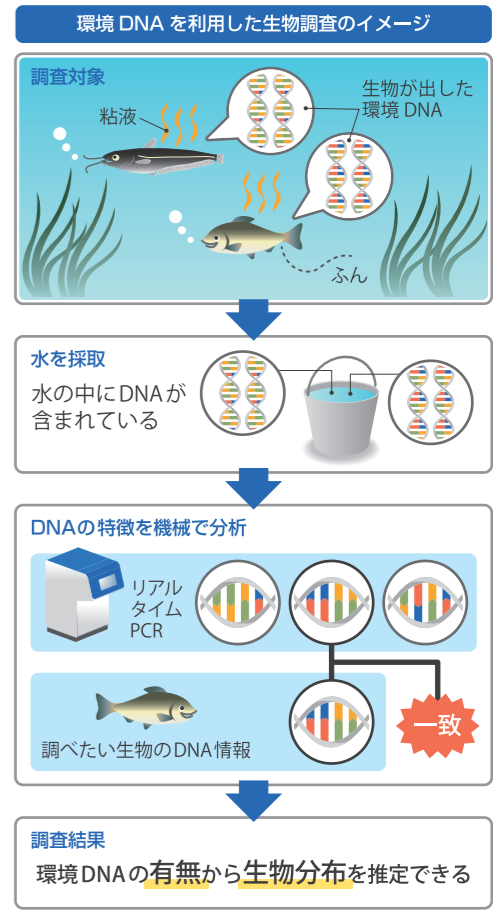


注目される「環境DNA」

生物の多様性の減少は、深刻な社会問題の一つ。前号で紹介した「オオサンショウウオ」の交雑種問題は、個体数が少ないこと、夜行性であることなどから従来の捕獲・DNA鑑定による手法では広域な調査が困難であった。近年、この手法のデメリットが補完できる新しい技術「環境DNA分析法」が開発され注目されている。環境DNAは2008年、フランスの研究チームが池の水の中にウシガエルのDNAが含まれていることを見つけたのが最初だといふ。

オオサンショウウオの調査研究で有効性が確認されている環境DNA分析法は、様々な生物種にも適用できる新しい技術。河川水中や土壌中に含まれる生物の排泄物や分泌物に由来すると考えられる生物固有の遺伝情報が記録されたDNA断片（環境DNA）を検出することによって、そこに生息、また分布する対象生物をモニタリングするもの。直接、個体を目視で識別するのではなく、環境サンプル中のDNAを検出して、その塩基配列によって種を識別するもので、従来の水中における生物モニタリングと比べ、少ない労力で広範囲な調査が可能となる。また目視では容易に識別できない種の識別も可能で、従来法に比べ優れる。



数リットルの水を採集するだけで、生物分布モニタリングが可能な画期的な分析手法の「環境DNA分析法」。手順は、採取した試料を実験室に持ち帰り、平均口径0.7マイクロメートルのガラス繊維の紙でろ過し、ろ紙上の残渣にタンパク質を分解する特殊な薬品で処理し、「DNA抽出用カラム」という器具を用いてDNAを抽出する。最終的に0.1ミリリットル程度の液量まで濃縮し、この前処理液を専用の分析装置でDNAを検出・解析する。採取した試料に含まれるDNAと、目的とする対象生物のDNAの特徴が一致すれば、採取した試料に「生物がいる」と推定できる。

迅速に分布調査を行うことができるなど、新技術は、新たな生物分布モニタリング手法として多くの可能性を秘めている。また分析に必要な消耗品の経費は、僅か1500円程度。多くの労力とコストがかかっている「河川水辺の国勢調査」に適用できるならば、調査コストを大幅に削減できる可能性がある。

今後、適用できる生物種の拡大、専門家でない人でも簡単に利用可能な手法を確立し、将来的には絶滅危惧種の生態調査、公共事業に伴う環境影響評価などに役立つことが期待されている。

河川水辺の国勢調査
 河川を生物環境という観点からとらえ、定期的、継続的、統一的に、基礎情報を収集整備するための調査。主に全国109の一級水系の直轄区間の河川及び直轄・水資源機構管理のダムが対象で、調査対象の生物項目は、魚介類、底生動物、植物、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、陸上昆虫類等の7項目（ダム湖調査はプランクトンを含めた7項目）。

水が語るもの

THE RIVER
 川シリーズ
 摂津の人取り川
 武庫川



- 水ものがたり 京都の水インフラII
- 世界の水 水辺空間を生かした都市再生の事例 -ヨーロッパ(その1)-
- 近畿の水名橋
- 水と文学 澁川、近世舟運の檣舞台として
- 昭和28年8月多羅尾大水害と南山城大水害(I)
- うおーたーなっと 水都大阪と幻の大阪大国技館(5)
- 水と土木がある風景 砂防堰堤 ~兵庫県近代砂防事業発祥の地(武庫川支川)~

本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。インターネット環境をお持ちの場合は、<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/> においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。

誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は行っておりませんので、ご了承ください。



武庫川 スケッチ

- 編集担当が「武庫川」を
- 取材中撮影した、厳選写真を
- ご紹介します！



「武庫川コスモス園」キバナコスモス



「麻線敷ハイキングコース」溝滝尾隧道と第2武庫川橋梁

水が語るもの

表紙写真

兵庫県西宮市塩瀬町名塩「武庫川」



目次

3

水ものがたり
京都の水インフラⅡ

京都工芸繊維大学 副学長 教授 おの よしろう 小野 芳朗

6

川シリーズ
摂津の人取り川 武庫川

10

世界の水
水辺空間を生かした都市再生の事例 ―ヨーロッパ(その1)―

一般社団法人 近畿建設協会・技術顧問 なかの まさひろ 元大阪産業大学教授 中野 雅弘

12

近畿の水
名橋

14

水と文学
淀川、近世舟運の檣舞台として

評論家・文化プロデューサー かわうち あつろう 河内 厚郎

18

昭和28年8月多羅尾大水害と南山城大水害(Ⅰ)

工学博士 みやい ひろし 宮井 宏

24

うおーたーねっと
水都大阪と幻の大阪大国技館(5)

水都の会 城北川プロジェクト みじい かおる 代表 藤井 薫

26

水と土木がある風景
砂防堰堤 ～兵庫県近代砂防事業発祥の地(武庫川支川)～

28

トピックス



水ものがたり

京都の水インフラⅡ

京都工芸繊維大学 副学長 教授

おの よしろう 小野 芳朗



二 明治四年以降の御所用水 (前号の続き)

平常時にも御所側と上流農村側の分配水量の取決めがあったものの、しばしばそれらが守られていない実態をみてきた。一方、渇水時には近世に御所側が上流農村に遠慮して、水を田地へ優先的に融通する事を認めていた。近代には水の所有権が省内省にあるため、村々から京都府を通して主殿寮出張所へ水の融通を申請することとなった。

井水を汲み上げて補充しても、間に合わなかった明治十六年夏の渇水が少なく、田植時前後に三日間のみ雨がたっただけで、その他は照り続き、炎威・焼くが如き早魃となった。かつては早魃の時も御所の庭園用水を絶やさぬ事が原則とされていたが、上流村々において全く水が欠乏

した際には御所分を村へ廻すことがあった、という。明治十六年の下鴨村から京都府への御所用水引水この申請時には引水期間を「若干日」とあり、どれくらいの期間水が廻送されたのか記録はない。いずれにせよ、賀茂川の水面とその用水の支配権が官有となったのちも、近世の渇水時の田地優先という慣行が持ち出され、その事例をもとに御所用水分を田地へ融通することが認められる構造がみえてくる。

安政五(一八五八)年に始まる我が国のコレラ流行に代表される様に、患者の排泄物から表流水、飲用水をルートする感染力の高い消化器系伝染病の大流行期が明治時代であった。コレラは特に致死率の高い伝染病であり、この御用水への投棄事故以外にも、患者の隔離小屋を用水筋に建てた者を取り締まってほしいという照会が、主殿寮より京都府宛出ている。

用水筋の掃除は京都府より各町宛通知が出ていたが、しばしば掃除で集めた塵芥や土砂をそのまま用水へ投棄する者もいたようだ。また洗濯をする者もいた。こうした実態は他の城下町でも近世より記録されていることであり、表流水の水質管理が沿道筋へ浸透するのははるか後世のことである。



図2 相国寺境内の御所用水跡(少年の視線方向が下流)

三 琵琶湖疏水の疏水の竣工

明治十六(一八八三)年、琵琶湖疏水の計画は勧業諮問会(十一月五日)と、上下京連合区会(十一月十五日)と、に諮られた。その計画は、当初農商務省主導で作成された。疏水のルートは大津三井寺より山科の長等山をトンネルで抜け、蹴上着水点より東山山麓を北上し、高野川、賀茂川を伏せ越して堀川に至るもので、琵琶湖水面の標高八四メートルに対し、この京都盆地北上ルート中、最も標高の高い高野川と賀茂川の中

摂津の人取り川が

武庫川

武庫川水系は、源を丹波山地に発し、篠山市南矢代地区で河川名を武庫川に変え、天神川を合わせ三田市に至り三田市広野まで大蛇行し流下する。さらに幾つもの支川を合わせながら、宝塚市の生瀬まで北摂山地を浸食してできた深い渓谷を南下し、武庫平野で逆瀬川、仁川などを合わせて大阪湾に注ぐ。その流域は2府県、7市、1町にまたがり、流域面積499.9km²、幹線流路延長65.7kmである。

「武庫」の由来は諸説あるが、難波の都から見て「向こう」であったからといわれている。武庫川は昔から「暴れ川」として知られ、武庫川渓谷部分を除くと川の流が定まらず、たびたび被害をもたらした。武庫平野では洪水により流れをしばしば変え、大きな災害をもたらした。

流域圏の人口増のため、羽東川の千刈渓谷に神戸市が千刈ダムを築造したのを始め、流域の支流に5つの利水ダムが建設されている。

武庫川渓谷は、隆起した山を川が削ることでよって形成された先行谷という特徴を持つ。貴重な自然環境を有する渓谷は、約8kmのV字渓谷の中、廃線敷を歩くハイキングコースや、春の山桜、緑したたる夏、全山が燃え上がる紅葉と、四季折々の姿を見せる。



【写真提供】花のじゅうたん

三田市北東部の山里に昭和59年春開園した全国でも数少ない芝桜専門庭園。園内のゆるやかな丘の畑一杯に植えられた芝桜（モスフロックス）が一億輪もの大群落となって丘をピンク色に染める。開花時は地面をまったく見せないほど咲き詰めることから「花のじゅうたん」と名付けられた。ピンク色のほか、鮮やかな赤紫や白の芝桜の景色が楽しめる。ペット同伴、お弁当の持ち込みでも入場可能、苗の即売もある。開園期間は、4月中旬頃から5月中旬頃まで。



【写真提供】青野ダム(千丈寺湖)

武庫川の支流、青野川に1988(昭和63)年竣工した多目的ダム、青野ダムによってできた湖が「千丈寺湖」。当時の三田市長が命名し由来はダム北側の千丈寺山からとられた。県道308号からダムサイトに通じる入口の「青野ダム記念館」には周辺から出土した須恵器など埋蔵文化財の展示やダム模型などのダム建設にかかる資料が展示されている。記念館からダム管理所までのダムサイト公園広場は、家族連れなどが憩える湖畔となっている。



六甲山の自然に囲まれた関西の奥座敷と称される武田尾温泉への電車の玄関口、武田尾駅は現在、福知山線（JR宝塚線）の新線切換によりホームの南半分が武庫川渓谷の橋梁（第二武庫川橋梁）上に、北半分がトンネル（第一武田尾トンネル）内にある珍しい駅。かつて武庫川にダム建設が計画されていたため、ホームまではかなり高い。武田尾駅から温泉街に通じる武庫川には鮮やかな朱色の吊り橋（武田尾橋）が架かり周辺の緑とは対照的で美しい。

【写真提供】武田尾駅



【写真提供】有馬温泉



六甲山の裏（北側）にある日本三古泉に数えられ炭酸煎餅でも有名な有馬温泉。温泉街を東西に挟み北方向に流れる六甲川と滝川は「ねね橋」下で合流し、有馬川と名を変え武庫川に注ぐ。合流部から太閤橋までの河原は親水整備され、散策や水遊びが楽しめる。温泉街では宿泊のほか、日帰りでも「足湯」や「金の湯」などの温泉を楽しむほか、観光名所を散策し豊かな自然に触れ森林浴・日光浴・イオン浴が楽しめる。

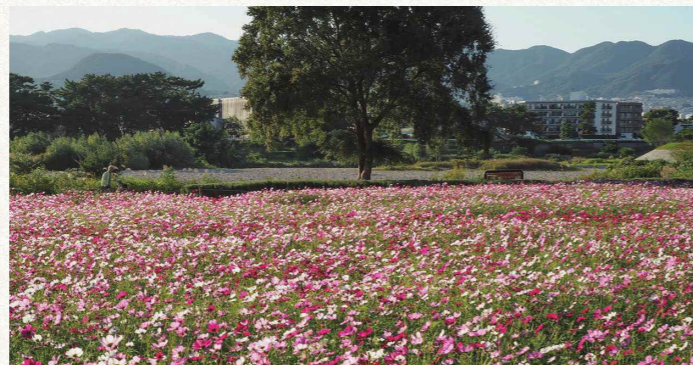


【写真提供】手塚治虫記念館

【写真提供】手塚治虫記念館

ヨーロッパの古城をイメージした外観が特徴的な宝塚市立手塚治虫記念館。入口前の「火の鳥モニュメント」が入場を誘う。5歳から約20年間を宝塚市で過ごした手塚治虫が唱えた「自然への愛」「生命の尊さ」をテーマに、青少年の夢と希望を未来へ伝えていく施設として設立された。展示フロアには、鉄腕アトムなどのキャラクターのフィギュア、仕事部屋再現コーナー、トレードマークの眼鏡や帽子など、ゆかりの品や数々の作品展示など、手塚ワールドが広がっている。

【写真提供】武庫川コスモス園



2003(平成15)年に誕生した阪神間で最大規模の武庫川コスモス園。国道171号の甲武橋東詰を北に入った所にあるコスモス園は、江戸時代に武庫川を越える西国街道の渡し（髭の渡し）があった場所。武庫川河川敷一杯に広がる約550万本のコスモス畑は秋の花の名所として定着し、例年9月の始めに種をまき10月下旬から11月中旬にかけて見事な色とりどりの絨毯が広がる。コスモス園から西側を望む武庫川や甲山、六甲の山並みが借景となっている。



【写真提供】花乃みち

1924(大正13)年の宝塚大劇場開場時、武庫川沿いに造成された阪急宝塚駅から宝塚大劇場へ通じる、車道よりも一段高い歩道。花と緑・人・建築が交歓する憩いの回遊空間となっている花乃みちは、宝塚歌劇へ続く「花道」から名付けられた。かつては武庫川の堤防で、名残の松が桜並木に混じる。春は咲き誇る桜が楽しめるほか、四季折々の植物が歩道沿いに植えられ、紫や黄色など美しい花がペット連れなどの散歩者など行き交う人を楽しませる。



【写真提供】小浜宿

小浜地域は15世紀末に浄土真宗の毫根寺が建立され寺内町として発展。その後も大坂や京都と有馬、西宮などを結ぶ交通の要衝であることから江戸幕府が重視し、幕末まで旅籠や木賃宿、馬借などが並ぶ宿場町として栄えた。大工や左官、酒造りの町としても知られ、当時の面影を残す町家、大工道具などの歴史資料が残り、戦国武将・山中鹿之介を祖先とする山中家に隣接した小浜宿資料館や小浜工房館などで当時の一端にふれることができる。



【写真提供】武庫川駅

潮止堰の直ぐ上流、川幅が広いその上を跨いでホームが設置されている阪神電鉄武庫川駅。川幅が広い武庫川上にあるホームは全国の都市部でも殆ど例がない。武庫川駅は1905(明治38)年の誕生とされ、当時のホームは尼崎市側にあった。大正9年に開始された武庫川改修工事に伴い、西宮市、尼崎市住民の利便性と用地買収を抑える最も合理的な案から大正10年頃、旧線路の北側、尼崎市側の一部に新武庫川駅が誕生したとされる。(日本経済新聞電子版より)



甲子園に消えた武庫川派川

枝川・申川



枝川と申川の流れ

プロ野球セ・リーグ、今年のレギュラーシーズンをBクラスに終えた金本監督率いる新生阪神タイガース。タイガースが本拠地とし、高校野球の聖地でもある甲子園球場は、大正13年、武庫川の東海道本線南側から枝分かれした枝川と、さらに現在の甲子園駅の南で更に分かれた申川の分岐点付近の河原に建設された。

球場建設は武庫川改修が契機

枝川と申川はともに、暴れ川であった武庫川の氾濫で誕生した川。枝川は1557年の氾濫で、また申川は1740年の枝川の氾濫で誕生したと云われている。1896（明治29）年8月と翌年の明治30年9月には、大阪付近を通過した台風により、20年に一度といわれる洪水被害が起り、阪神間では多くの河川で

堤防が決壊し、多数の死傷者がでた。甲子園球場の建設は、武庫川を改修し洪水被害から守ることがきつかけであった。

武庫川改修費用は売却益で捻出

兵庫県は武庫川を改修するため、1921（大正10）年4月、武庫川派川の枝川と申川を廃川（人工的に廃止した河川）にして、払い下げることによって河川改修と阪神国道（現国道2号）整備の費用を捻出することを決定。大正時代になり、阪神地区の開発が進み、武庫川下流付近も土地利用が進んで土地の価値が高まっていたことが捻出策の背景にあった。

廃川敷地を購入した阪神電鉄

1920（大正9）年から始まった東海道線橋梁から河口までの武庫川改修工事は、大正12年3月に完成。工事によって武庫川と枝川は枝川樋門と枝川縮切堤防によって遮断され、生まれた廃川敷地は道路や水路に、また残る土地をまとめて買収したのが阪神電鉄であった。廃川敷地を買収した阪神電鉄は、鉄道より北を田園住宅地に、南をスポーツ・レクリエーションゾーンとする開発構想を描いていた。



追悼セレモニーでは、金属製「生」モニュメント（2013年設置）がキャンドルでライトアップ。この場所では、震災発生時刻の12時間前の17時46分の黙禱に始まり、アカペラ独唱とトランペット演奏が行われた。

「生」の営みは 永遠に続く

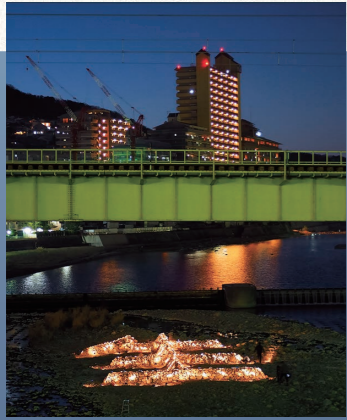
阪神・淡路大震災から21年目を迎える2016年1月16日、1・17前夜に開催された震災犠牲者への追悼セレモニー「宝塚「生」祈りのメッセージ2016・冬」。

武庫川に架かる宝塚大橋南詰側の南口会館で開催された一部に続き、17時から宝塚大橋南詰西側の「生」モニュメント前で二部が開催。二部の震災犠牲者追悼セレモニーでは金属製の「生」モニュメントのライトアップに合わせ、武庫川中州に石で「生」をかたどった石積みオブジェがライトアップされた。

増水のたびに消滅する石積みオブジェは、今回が第7代目。初代のオブジェは震災10年の

2005年、宝塚市の現代美術家の大野良平氏が「街と人の心の再生」を願った制作、しかし2006年秋の増水で流される。有川浩さんの小説「阪急電車」で描かれたのを機に注目され、2代目が10年12月に復活し、11年から1月17日の前夜に宝塚市の犠牲者数にちなんだ118本の懐中電灯の光で「生」の文字を浮かび上がらせてきた。

21年が経過し、担い手の高齢化のため被災地の追悼行事は年々少なくなっている。「あの日」の記憶をいかに次代に繋げていくかが、復興を遂げた被災地が抱える課題。被災体験を語り継ぐ人材の育成が重要であると、セレモニーの主催者挨拶の言葉が感慨深い。



ライトアップされた「生」の石積みオブジェ。2011年公開の映画「阪急電車 片道15分の奇跡」エンディング・クレジットの背景映像には、武庫川を渡る今津線の電車内から中州を捉えた場面に「生」の石積み映し出された。

盛り上がる中等野球が建設の決断

一方、大正4年に豊中球場で始まった全国中等学校野球大会は、第3回から武庫郡鳴尾村の鳴尾球場に移り開催されていたが、急激に盛り上がった人気の高まりのため観客が収容できない事態となっていた。

武庫川改修工事が終わった大正12年の第9回大会は、地元中の地元といえる西宮市の甲陽中学を含む関西地方の3校が勝ち進み、準決勝の立命館中学VS甲陽中学戦では超満員の観衆がグラウンドにだれ込んだため試合ができなく、この事態を重く見た主催者の大阪朝日新聞が本格的な球場建設を提案する。他方で、鳴尾球場を所有する阪神電鉄も廃川敷地開発の一環としてニューヨークのヤンキーススタジアムに匹敵する東洋一の新球場建設計画を進めていたことから思惑が一致し、1923（大正12）年11月、阪神電鉄は枝川と申川の分岐点に新球場（甲子園球場）の建設を決定する。翌大正13年から野球場を始めとする廃川敷地の整備が始められ、新球場は突貫工事により4ヶ月余りで建設された。大正13年は、十干の最初の甲と十

旧福知山線 廃線跡ハイク

福知山線の廃線跡を歩く武田尾駅と生瀬駅間、武庫川沿いの宝塚市と西宮市に跨る約6kmのハイキングコースは、旧国鉄生瀬―武田尾駅間が1986（昭和61）年の複線化に伴い廃線となった跡。山間のトンネルや鉄橋が多い西宮側ルートは3.2kmはJRが看板を

設置し30年間立入禁止に。しかし無視して訪れるハイカーが続出する加熱人気にJR西日本が根負け。西宮市と協議し、今年の5月から半年間をかけて床板や手すりの設置など安全対策工事でコースが再整備された。



殆どがトンネルで結ばれた生瀬駅と武田尾駅間は、かつて四季折々の姿を見せる武庫川渓谷が車窓から楽しめた。ここは今、「展望広場」としてハイカーの眺望・休憩場所となり、激しい渓流の音に癒されるスポットだ。

ルートは武田尾駅、生瀬駅のどちらからでもスタートできる、一度は訪れたい一本道。廃線跡とはいえ線路を歩けることに気持ちが高揚する。照明がなく漆黒のトンネル内、赤茶けたレトロな鉄橋、武庫川渓谷の渓谷美や巨岩・川のせせらぎ、親水広場からの川遊び、春は桜つつみ回廊「桜の園」など、コースは見



緑のトンネルで覆われた枕木の残る廃線跡を歩くハイカー。コースはアップダウンが少なく、真っ暗なトンネル内で足下に気をつければ、のんびりと武庫川沿いのハイキングが楽しめる。

所がいっぱい。武田尾駅着ルートでは、少し足を伸ばすと武田尾温泉の足湯で疲れを癒すことができる。



球場ライト側スタンド下（Tigers Shop付近）



かつての枝川（甲子園筋の甲子園五番町交差点）

世界の水

一般社団法人 近畿建設協会・技術顧問

元大阪産業大学教授

なかの まさひろ
中野 雅弘

水辺空間を生かした都市再生の事例 ーヨーロッパ(その1)ー



はじめに

前回までは、ヨーロッパ大陸から離れた島国である英国について2回に渡って連載しました。英国からヨーロッパの国々に目を転じてみると、英国以外の各国にはさらに様々な水辺空間を活かした都市があります。今回は大陸に渡り、いくつかの「水辺空間の活用」の事例について述べてみます。最初に、ベネルクス(3国)の中で運河の都市として有名なオランダのアムステルダムについて紹介します。

1. 運河を活かした大都市、アムステルダム

オランダは海を埋め立てて国土を拡大したことで有名で、ネーデルラント(Netherlands)と言われように「低地の国々」を示す。その中でも中心的なアムステルダムは、13世紀にゾイデル海に注ぐアムステル川の河口にダムを築き、町が築かれ、16世紀には海運貿易の港町として、



昔を偲ぼせる水辺の町並み

立つとともに、観光クルーズ船の乗客やレジャーボート利用者の目を楽しませている。また、国土が平坦なオランダは全国的に自転車が普及して、主な交通手段(モード)になっている。アムステルダムも例外ではなく、鉄道中央駅から南にまっすぐな自転車専用レーンが設けられており、市内全域にネットワークを形成



中央駅から延びる自転車専用レーン



古い船を利用した駐輪場

2. フェルメールが生まれた町、デルフト

デルフトは16世紀以降商業中心地として栄え、オランダの古都で著名な観光地として有名であり、レンブラントと並ぶ17世紀オランダ黄金時代の代表画家であるフェルメールが生まれて、生涯のほとんどをすごした町でもある。彼の作品は30数点しか現存しないが、代表作の「真珠の耳飾りの少女」はお隣の町デンハーグのマウリッツハイス美術館にある



運河と旧教会(フェルメールの墓がある)



鐘楼から見たマルクト広場と町並み



デルフト南門と双塔



町中に幾重にも巡る運河



中央駅北側水辺の近代的なビル



今も使用する跳ね橋をバックに

ヨーロッパ屈指の都市へと発展した。現在のアムステルダムは、アムステルダム中央駅を中心に市内に網の目状に広がる運河や、その運河に沿って並ぶ豪商の邸宅や繁華街などで賑わっている。

町中に何重にも巡る運河は、昔から荷を積み替えた小舟がどこからでも荷揚げが出来るように建物を工夫して、運河岸辺に沿った道とともに交易を支えていた。現在、建物はアトリエ、オフィス、ギャラリー、住宅などにリフォームされ、センスのあるデザインで落ち着いた雰囲気を見せている。このような水辺には、カフェテラスや花屋などが建ち、地元市民や観光客で賑わっている。一方、アムステルダム中央駅北側の海側には、近代的デザインのビルや住宅が



低い橋の下を通る船

建設されている。

運河を利用した舟運は、日常生活や物資の運搬に役立っているとともに、観光客にはクルージング船による観光サービスの提供に役立っている。また、運河を渡る橋にも古い橋が保存され、市民の通行などに役

が、生誕地としてここで紹介した。

また、オランダ最古の工科大学であるヨーロッパ屈指の名門校である「TUデルフト」を擁しており、オランダの強みである運河の「水理」工学分野の土木工学としては世界トップクラスの大学で、海外からの多くの留学生を擁する大学生の町でもある。

こじんまりしたデルフト駅を降りて、市の中心地に向かう途中には昔からの運河があり、その周辺には中世の建物が市街地を形成している。市街地の中心にはマルクト広場があり、フェルメールが過ごした家も近



デルフト焼きのショップ



「真珠の耳飾りの少女」
(デンハーグ：マウリッツハイス美術館)

く、彼の墓もある旧教会(何故か? 傾いている)も近い。町全体は当時張り巡らされた運河が周囲の建物と調和を保ち、落ち着いた景観を感じさせる。

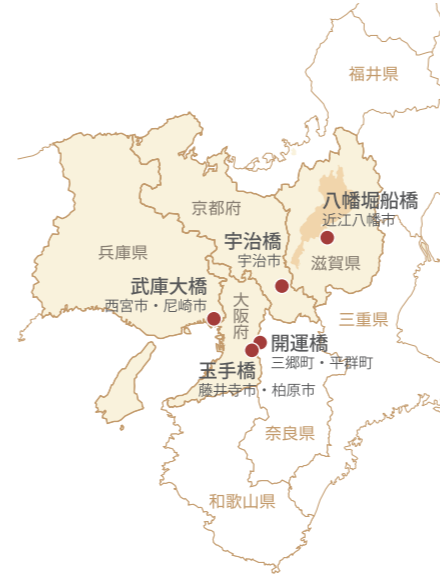
やがて

オランダは、海を埋め立てて国土を作った国であります。そのため、国土の広さには制約があり地盤の標高も低くかつ地盤も軟弱であります。首都のアムステルダムはそのような不利な条件を克服し、16世紀には当時としては最大級の都市として繁栄を遂げました。また現在もヨーロッパでの主要な都市の一つとして、水辺を生かし都市機能を維持しながら、デルフトにもみられるように市民の生活に潤いを与える空間を提供していることに敬意を表したいと思います。

名橋

第三回
戦と熱意の賜物である。
人物・文化、様々なものを繋ぐ橋。今日までの橋の発展は、先人達の英知と勇断、中でも新しい技術の開発と実現に向けてのたゆまぬ挑戦と熱意の賜物である。

前号で紹介した琵琶湖大橋(滋賀県)、七条大橋(京都府)、宝来橋(兵庫県)、高麗橋(大阪府)、かえる橋(和歌山県)は、架けられた時代背景、周囲環境、施工条件など様々。名橋に相応しく、意匠や使われた材料などから文化・歴史を感じさせる。これら古くから培われた技術は新しい形を求め、未来へと繋がっていくのだろう。
今回は、ユニークな形状の小さい船橋のほか、近畿の著名な5橋を訪ねてきました。



武庫大橋 —むこおほし—

尼崎市と西宮市を結ぶ国道2号の武庫川に架かる全長約200mの武庫大橋。大正中期の貨物自動車の普及や武庫川第二期改修工事など、当時の時代背景のもと大阪～神戸間を東西に貫く大動脈として1919(大正8)年に阪神国道(国道2号)の建設が決定、1926(大正15・昭和元)年に竣工した。

かつては中央部を路面電車(阪神国道線)が走っていた。阪神電鉄の子会社として大正14年に設立された「阪神国道軌道」が、突貫工事で野田～東神戸間26.0kmを昭和2年に開業し路面電車を走らせたが、モータリゼーションの影響で1974(昭和49)年5月に姿を消す。尼崎市のセンタープール近くの水明公園と蓬川公園に路面電車が静態保存されている。

2006(平成18)年、「当時最大級(6連)のRC開腹アーチ橋で、開腹部はアーケード状、また装飾的なバルコニーを有する道路橋である。」として、土木学会選奨土木遺産に認定された。

六甲の山並みと調和し、美しい6連のアーチとバルコニーが特徴の武庫大橋。写真右には、昭和5年竣工し阪神間における高級社交場として賑わった旧甲子園ホテル(現武庫川女子大学)のシンボリックな双塔がそびえる。



高水敷から望む歩道から振出す優美なバルコニー。阪神・淡路大震災では関東大震災の教訓から耐震性に配慮した設計のため、欄干の損傷は一部であったという。

玉手橋 —たまてばし—

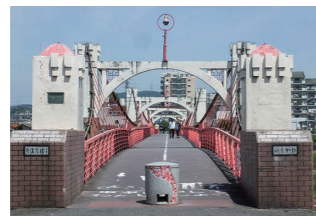


5径間連続吊橋(右岸側から、18.05m+38.1m+37.85m+38.45m+18.85mの径間割り)。遊園地へのアプローチに相応しく、主塔を開腹アーチで結び橋台もアーチ型とし、コンクリートを部分的に煉瓦で補強するなど、装飾的な仕上げとなっている。

大和川水系石川に架かる橋長151mの玉手橋。1928(昭和3)年、当時の大阪鉄道(現近鉄)が道明寺駅から石川対岸にある1908(明治41)年開設の玉手山遊園地へのアクセスとして設置した吊橋で、現在は柏原市が管理する自転車・歩行者専用橋。2001(平成13)年、5径間吊り橋として全国初の「登録有形文化財」に登録された。

橋下の石川高水敷は全川にわたって「石川河川公園」として自転車道(サイクルライン)、河川公園が整備され、憩いの場となっている。

関西の私鉄沿線には鉄道会社が運営する遊園地がこれまで多く開園してきたが、時代の流れとともに閉園し商業施設や住宅地へと転用。玉手山遊園地は私鉄の経営を離れても柏原市立「玉手山公園」として引き継がれて今も運営している。「近鉄玉手山遊園地」時代の観覧車等の大型遊具は撤去されたが園内にはレトロな遊具施設等が残されており、遠足に根強い人気を誇る。公園一帯は4世紀の古墳群であるとともに大阪夏の陣(1615年)の激戦地になった場所。標高73mの玉手山は北側の展望台から玉手橋や遠く神戸や大阪が見わたせる景勝地である。



玉手山側の柏原市内から藤井寺市の近鉄道明寺駅を利用する多くの通勤・通学者などが橋を利用。玉手山公園へは、橋から15分程度の距離にある。

開運橋 —かいうんきょう—



橋を朝護孫子寺側に渡り下側の道路から上を眺めると、鉄骨で組まれた構造体が見てとれる。お寺への参道に相応しく、朱色に塗装された姿が美しい。

奈良県生駒郡三郷町、信貴山西の大門池に架かる信貴山「朝護孫子寺」への参道として1931(昭和6)年に完成した全長106mの開運橋。かつて大阪から信貴山へのアクセスとして開業・営業していた信貴山急行電鉄(鋼索線と、高安山駅～信貴山門駅の鉄道線)の終点・信貴山門駅から真っ直ぐ朝護孫子寺に向かう近道として架けられた。日本最古の「カンチレバー」という構造を持つ珍しい橋。カンチレバーとは橋脚の左右でバランスをとりながら少しずつ橋桁を伸ばす工法で、戦前に架けられた橋で現存するのは長野県の中津橋(昭和7年架橋)の2例のみで、開運橋が最古。また「トレスス橋脚」という橋を支える橋脚は全国でも珍しく、2007(平成19)年、文化財価値が認められて国の「登録有形文化財」に登録された。



朝護孫子寺への参道、開運橋上路。朝護孫子寺の境内にはたくさんの真の像があることでも有名な寺。橋の両方の入口に設置された車止めにも「真」のイラストがある。

大門ダム堰堤側に架かる信貴大橋は、開運橋の全景が見わたせるビューポイント。

八幡堀船橋 —はちまんぼりふなばし—



映画『るろうに剣心』では、第1作から第3作「伝説の最期編」まで八幡堀がロケ地となった。第2作「京都大火編」で京都へ向かう緋村剣心と神谷薫との別れシーンは、船橋あたりで撮影された。

石畳と緑が映える八幡堀の遊覧を楽しむ「八幡堀めぐり」。架かる橋は日年八幡宮の参道にある白雲橋(宮ノ橋)。

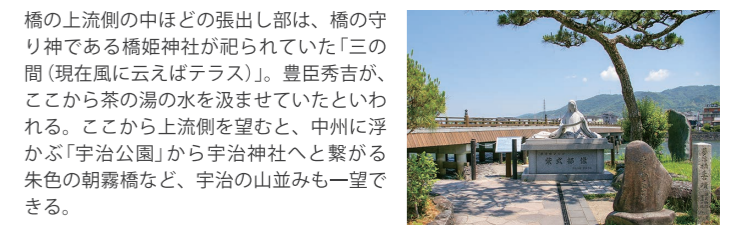
ドラマや映画のロケ地としても有名な滋賀県近江八幡市の八幡堀(全長約6km)に渡された船橋。八幡堀と水路を通じた琵琶湖最大の内湖「西の湖」に舳先に向けた二艘の小舟の上に渡されたユニークな構造の橋である。船橋は1995(平成7)年、「かわらミュージアム」の開館に合わせて市が設置したもので、一時は河川法違反(不法占用)に問われて県から撤去を求められたが、国土交通省が不法占用には当たらないと判断し残ったという。ミュージアム前から乗船する八幡堀めぐりでは、近江商人の栄華を示す土蔵群や石垣を見ながらの船旅が楽しめる。

八幡堀は、1585(天正3)年に豊臣秀次(秀吉の甥)が八幡山に城を開き開町したことに始まる。旧城下町の碁盤目状に整備された八幡堀周辺の町通りには、江戸時代に建てられた近江商人達の家が保存され、国の「近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区」に選定されている。また周辺には、明治時代に英語教師として来日したヴォーリスによる多くの近代西洋建築作品が遺されている。

宇治橋 —うじばし—

宇治橋は、646年(大化2年)に初めて奈良元興寺の僧侶道登によって架けられたと伝わる日本三古橋の一つ、鶴飼でも有名な宇治市の宇治川に架かる橋。『古今和歌集』『源氏物語』『平家物語』等にも登場し、宇治の歴史と風情を象徴させる存在である。幾度と架け替えられた現在の橋は1996(平成8)年に架け替えられたもので、長さは155.4m、幅25m。木橋をイメージさせる、鳥居型の橋脚、国産檜製の擬宝珠高欄、スカート状の桁隠し、上流側の網代木型流木よけなど宇治川の自然や橋周辺の歴史遺産と調和するよう伝統的な形状をしている。

宇治は茶所でも有名。宇治橋西詰から平等院に通じる道には室町時代から続く宇治茶の老舗がずらりと並び、お茶の香りが漂う歴史ある表参道である。また東詰から直ぐの「宇治市源氏物語ミュージアム」では、源氏物語の世界が映像などで紹介されている。全五十四帖(巻)からなる紫式部の長編小説「源氏物語」は、最後の十帖は宇治が主な舞台となっているため「宇治十帖」とよばれている。



橋の上流側の中ほどの張出し部は、橋の守り神である橋姫神社が祀られていた「三の間(現在風に云えばテラス)」。豊臣秀吉が、ここから茶の湯の水を汲ませていたといわれる。ここから上流側を望むと、中州に浮かぶ「宇治公園」から宇治神社へと繋がる朱色の朝霧橋など、宇治の山並みも一望できる。



平成16年に整備された宇治橋西詰の「夢の浮橋広場」には、紫式部の石像が橋を背にして座っている。ここから世界遺産(世界文化遺産)平等院へも近い。

淀川、近世舟運の檣舞台として

評論家・文化プロデューサー

河内厚郎



三川合流部 【写真提供：淀川河川事務所】



守口宿の文禄堤：石垣部が文禄堤の名残（陸橋は守居橋）



守口宿：江戸時代の宿場町の面影を残す文禄堤

文禄堤看板

春と秋、大阪の「一本松海運」が、屋形船風の観光遊覧船を、八軒屋浜（天満橋）——枚方の約21キロメートルで運航している。枚方から伏見方向へ向かう約18キロについては砂が溜まりやすく水深が浅いため観光船は走っていないが、航路しだいでは走れることを実証するため国土交通省近畿地方整備局が4月2日に運航した実験船は、慎重に舵を切って難所を摺り抜け、淀川をさかのぼって宇治川に入り、八幡市の新船着き場に到着した。

同省では、江戸時代に栄えた淀川舟運を復活させて京阪間を観光船で往来できるようにしようと、水深マップを作り安全確保に努めたうえで舟運会社に定期船運航を促すということであり、宇治川・桂川・木津川の三川合流域には、展望塔や物産（とりわけ「食」）を販売する「さくらであい館」が来年3月25日にオープンする予定だ。

淀川舟運の開発

天正11（1583）年、天下統一の拠点となる巨城を大坂の本願寺跡に築いた豊臣秀吉は、上流の淀の地にあった城を改修し、女城主として側室・茶々（淀殿）を置いた（京阪「淀」駅の北側に石垣を残す淀城は江戸時代のもので淀殿とは無縁）。さらに秀吉は伏見にも城を築いたので、大坂と淀・伏見をつなぐ最短陸路が必要となり、文禄3（1594）年、諸国の大名に命じ、京街道の整備と治水を兼ねた淀川築堤工事を始めた。淀川左岸の堤を枚方から長柄（大阪市都島区）まで改修した約27・7キロメートルの「文禄堤」は、京阪「守口市」駅北側に600メートルほど残っている。

こうして淀川の航路が安定すると、北陸の産物が琵琶湖・淀川を経由して大量に大坂へ運びこまれるようになった。



枚方宿の面影を留める「市立枚方宿健屋資料館」



整備された「枚方船着場」

うになった。江戸時代後期の文人、広瀬旭荘の「一人云、天下の貸七分は浪華にあり、浪華の貸七分は舟中にあり」（『九桂草堂随筆』）という名言は、わが国の中枢部を貫く淀川（大川）水運が現代のハイウェイのような経済の大動脈であり、大量輸送手段として如何に舟が重要であったかを物語る。

発展する伏見

秀吉は、征韓の役の和議交渉に明国の使節が来朝することになったので、文禄元（1592）年、伏見山に急ぎ築城工事を始めた。指月の北東、明治天皇が奉葬されている桃山御陵が、その伏見城の本丸に当たる。

慶長元（1596）年に完成した伏見城は、造営時に横島堤を築くことで、巨椋池に注ぎ込んでいた宇治川を分断して北へ迂回させ、伏見の南を通る今の流路に変えたといわれる。さらには巨椋池の中に堤を築いて大和街道を敷き、鴨川を伏見稲荷の西方、勧進橋から西に切り替える地形改造をおこなったので、巨椋池へ直接注いでいた宇治川と木津川は新たな流れとなり桂川と合流することになった。

この「大閘堤」により、淀川を運ばれてきた資材を荷揚げする港として栄えるようになったのが伏見の地であった。秀吉は、伏見城下の両側

（伏見城の南側、淀城の北側）に外濠をつくり、七瀬川の流路を曲げて城下を囲んだ。秀吉の保護の下に発展した伏見の町は、関が原の合戦の前哨戦として攻略され大半を焼失したが、徳川の世になると舟運の拠点として再び栄えるようになった。（秀吉の時代、現在使われている「桃山」という地名はなく、当時は松原山などと呼ばれていた）

東海道五十七次と三十石船

豊臣から徳川へと世は移り、元和2（1616）年、東海道の宿として伏見・淀・枚方・守口が設けられた。五十三次大津宿から逢坂山を越えた東海道は、山科で京都へ向かう道と伏見・奈良へ向かう道とに分かれ、後者は五十四次伏見宿、五十五次淀宿、五十六次枚方宿、五十七次守口宿へと伸び、豊臣時代の京街道の終点・大坂京橋を通して、江戸時代に終点となる大坂高麗橋へとつながっていた。

大坂八軒家と伏見京橋を結ぶ「三十石船」は、井原西鶴の『好色一代男』、北条団水の『一夜船』、弥次喜

多の滑稽譚で知られる十返舎一九の『東海道中膝栗毛』、上方落語の『三十石』、浪曲『森の石松』；多くの文芸・芸能の題材として親しまれるようになる。夜に伏見を発ち朝に大坂へ着く夜船、日中に生駒・北摂・

武庫（六甲）など兩岸の山々を遠望しつつ下る船旅：それぞれに独特な風情があり旅人の交歓の場となった。枚方市立枚方宿鍵屋資料館によれば、約45キロメートルの所要時間は、岸から綱で引く上りが12時間、

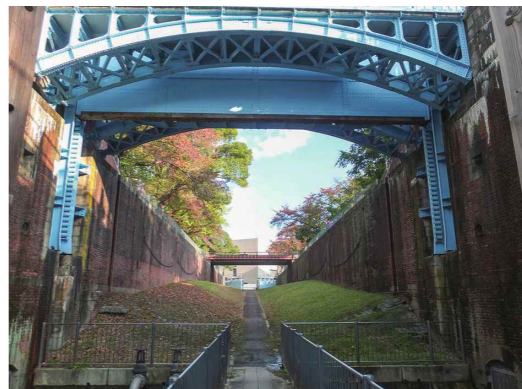
下りは6時間程。上りの船を兩岸から綱で引っぱり上げる箇所は九ヶ所あった。寛永12（1635）年に参勤交代が始まると、伏見や枚方は水陸の要所として栄えるようになった。江戸



淀川下流部（淀川と大川の船の往来は、毛馬閘門を通過する）【写真提供：淀川河川事務所】

時代の旅人たちは、京阪間のほぼ中間に位置する枚方宿から、京都へは陸路で、大坂へは舟便を盛んに利用した。枚方を初めて外国に紹介した

とされるポルトガル人宣教師ルイス・フロイスの永禄8（1565）



毛馬第一閘門（明治40年から昭和51年まで使用された）



毛馬閘門（大川に戻ってきた巡視船）

年の記録にも「Finrakata」と記されているから、戦国時代から

宿泊機能をもつ町だったと知れよう。秀吉の朝鮮侵略から家康の善隣外交への転換で始まった朝鮮通信使の一行は、関門海峡を船で通って瀬戸内海に入り、大坂から川舟に乗り換え、枚方に上陸して昼食を摂った。

享保4（1719）年の離宮八幡宮の文書では四百人を越える規模の行列とあるが、朝鮮通信使や琉球慶賀使、將軍などが通る際、沿岸から人足を出す負担は大きいものであった。

長崎商館付医師のケンペルやシールボルトは枚方宿の印象を詳しく日記に残している。元禄4（1691）年、オランダ商館長の江戸参府に同行したドイツ人医師ケンペルが「ここにはたくさん旅館や料理屋があり、わずかなお金で酒を飲み、温かいものを食べることができ。どの店にも、若い女の人がいる。左手の川の向こうに見える城は、水中にできているようで大変美しい」と記した城とは高槻城のことだ。文政6（1826）年、江戸へ向かう途中、淀川左岸を旅したドイツ人医師シールボルトは、枚方付近の景観に祖国のメイン渓谷を思

い起こし、「高い堤防があり、水田へは暗渠によって水を入れる」「その暗渠は18フィートの深さで堤防を貫通し水田に流れ込み、堤防の中央にはいつでも溜池が掘ってあって、その池の底には水門があり随意に調節することができる」「左岸にある田畑は川そのものよりずっと低いところにあるので、洪水はそれだけ恐ろしい」（『江戸参府紀行』と、自然科学者の目で水利を観察し、一尺（約30.3センチメートル）ずつの目盛りがある水位計を発見している。

枚方・高槻を通る船に漕ぎ寄せて食べ物や酒を威勢よく売りつけた「くらわんか船」は、「飯くらわんか、あん餅、ごんぼ汁くらわんか」という野趣ゆたかな言葉遣いが旅情を誘った小船で、秀吉の時代に柱本（高槻市）の茶船の一隻が枚方に移ったのが始まりとされ、枚方が事実上の独占権を握った。平成17（2005）年正月、宝塚歌劇団花組が枚方宿を舞台にした『くらわんか』を上演、好評を博している。

文禄堤の築堤と共に発達したのが五十七次の守口であった。京阪「守口市」駅北側の、文禄堤を抜ける道

は、旧淀川を埋め立てた国道一号線と駅とを結ぶため、現在は切り通した道となっている。そこに架かる本町橋から西すぐの守居橋下が、堤の上からは一階なのに下からは二階と

なっているのは、古く仁徳朝（4〜5世紀頃、難波に都が置かれた）に築かれた茨田堤からの歴史を伝えるものだという。本町橋を東に渡ったところにある石段は、かつて船頭ヶ浜と呼ばれた船着場の跡で、江戸川乱歩が初めてミステリー小説を書いた下宿がこのあたりにあった。

「船着き場」「渡し」が生むドラマ

三十石船の終点・八軒家（天満橋）は、中世に栄えた渡辺津に当たり、大川をはさんで対岸にひろがる大坂

天満宮の門前町は中世後期から天満と呼ばれるようになった。本願寺が移ってきた時代もあれば秀吉が京都から御所をここへ移す構想もしていたという。由緒ある天満の町に三つ子が生まれ、巷の話題となったことがきっかけとなり、天神（菅原道真）をめぐって三つ子（梅王丸・松王丸・桜丸）が活躍する浄瑠璃の傑作『菅原

道真』が活躍する浄瑠璃の傑作『菅原

伝授手習鑑』が生まれた（1746年、道頓堀竹本座初演）。そこに登場する守口市佐太は淀川の岸部沿いにある、古代の茨田郡佐太郷に当たる。

道真が九州・大宰府へ赴任する途中、無実が証明されるかもしれないとの望みを胸に抱き朝廷からの沙汰を待ったと伝わる地で、佐太は「沙汰」に由来する地名だということだ。

近松門左衛門の『鍵の権三重帷子』（1717年、竹本座初演）は、大坂・高麗橋で実際にあった女敵討（姦通した妻とその相手を夫が殺害すること）の場を伏見の船着場へ設定を変えている。船着き場や渡しの場が歌舞伎などに多く見られるというのは、車や鉄道もなく水運が主であった時代、『君の名は』『冬のソナタ』のように（めぐりあい）（すれちがい）といった偶然的出来事がドラマの発端になったり新展開へとつながったりする、つまり、人と人が出会い、別れゆく、ドラマチックな場所だったからであろう。敵討が武士の美德とされたから、追い求める敵に出くわしたり逃げられたりする場としても使われた。

ちなみに、海に突き出した岬の断崖

淀川舟運の復活へ向けて

国土交通省近畿地方整備局は、11

月18日、有識者や経済界の関係者を招き、佐太―八軒家浜間で観光船2隻を走らせた。大阪城の北側にも船を走らせ、計約13キロを約2時間かけて下った。参加者は夕日に映える川面や鉄橋などを写真に収めるなどして楽しみ、水面の高さがことなる淀川から大川に抜ける毛馬閘門も体感した。語り部を務めた元淀川左岸水防事務組合収入役の裕永正光氏は「川の表情は地域で、季節で違うことを知ってほしい」、建築家の安藤忠雄氏も「川沿いの桜の紅葉も良かった。桜は春と秋2回楽しめる。皆が大阪を愛する気持ちがあれば、大阪はもっと良くなる」と話し、池田豊人・近畿地方整備局長は「来年度、定期便にしたい。船着き場までどう行かか課題だ」と語っている。

昭和28年8月多羅尾大水害と南山城大水害 (I)

工学博士 宮井 宏

1. 昭和28年8月14日、15日の大雨

・京都府南部、滋賀県南部、三重県北部では昭和28年8月14日夜から15日朝にかけて雷を伴う大豪雨となり、両日の総雨量が京都府湯船村では428mm、大河原282mm、田辺土木工営所162mm、木津町113mm、滋賀県多羅尾村では316mm(推定)、土山町261mm、田上229mm、雲井238mm、大原貯水池289mm、鮎川村200mm、三重県上野市では292mmに達し、京都府下で死者221名、行方不明115名、滋賀県で死者45名、三重県で死者14名をだす大水害が発生しました。

・この豪雨は東西に延びる寒冷前線に起因するもので、総雨量300mm以上の雨域は西は京都府鷲峰山から東は滋賀県多羅尾村の東まで伸び、総雨量250mm以上の強雨域も西は京都府宇治田原から東は三重県加太まで、北は滋賀県大原貯水池から南は三重県上野市までを覆っていました。

・この強雨域を源流としている中小河川の数は多く、これらの河川沿い

ることもできないでいた。
 ・午前8時半甲賀地区署から報告を受けた国警県本部は、待機中の特別機動隊に即刻出動命令を出した。同10時前現場に着いた機動隊は11名で挺身隊を編成、携行したボート3隻のうちの1隻にロープをつけ、岸から流れを利用して3名の所に着けた。チューブに命をあずけていた3人のうち1人がまず飛び乗った。警官がロープを手繰る、岸へ着いた、続いてまた1人、そして最後の1人と降りしきる豪雨の中、見事救助作業は成功。時まさに11時30分。3人はほとんど仮死状態で漸く救助された。
 ・湖南山間地帯の降雨量は14日午後10時から15日午前10時までで289mmに達した(甲賀町神地先大原貯水池調べ)。15日午後4時半、国警県本部に入った連絡によると、多羅尾村では500個所の山崩れがあり、押しつぶされた家屋41戸、死者41名の被害を出した模様。同本部では石部頭首工に派遣した特別機動隊20名にボート3隻を持ったそのままの態勢で、直ちに多羅尾に転進するよう指令、さらに本部から7名を応援に出した。この応援隊は雲井ま

には古代からの歴史を共有する村々が点在しています。しかもこれらの村々と大津、奈良、京都、堺、伊勢などを結びつける道、水運、鉄道などの交通網も驚くほど発達していました。このような地理的条件に加えて、この地域の地質は主として風化花崗岩で、これは良質の檜を産出することでよく知られている地質ですが、その反面檜が伐採されると大雨で山腹が崩壊し易くなることも知られています。28年の大水害は、このような地理的条件、地質的条件の山岳地帯に集中豪雨が降り、山腹崩壊と河川氾濫が起こり、人家、道路、橋梁、鉄道などが押し流された水害だったと言えるでしょう。

2. 中央气象台と京都測候所の釈明会見(昭和28年8月16日京都新聞より)

・京都測候所が大雨警報を出したのは15日午前5時。だが最大の被害を出した玉川の大正池の決壊は、すでにその朝の午前4時に始まっていた。被災者の間からは「なぜ予報が出なかったのか」との声がたかまわっているが、中央气象台の言い分はつぎのとおりである。

では車輛で、そこからは徒歩で途中合流した各地部隊と共に多羅尾村へ出発。到着は同夜半過ぎになる模様。
 ・15日午後6時現在国警県本部調べ。国鉄信楽線大戸川第二鉄橋(甲賀郡雲井村勅旨)が流失しレールがアメのように曲ったため15日初発から運行不能。復旧の見込みは立っていない。
 ・国鉄草津線は大原市場駅(現甲賀駅)一柘植間で鉄道線路が冠水したため地盤がゆるみ大原市場駅で折返し運転。柚川、野洲川ともに氾濫し大原村では家屋浸水も多く、大原ダムの取入口は危険のため消防団が出動。土俵を積んで警戒に当たっている。
 ・油日村では大字滝の会社員宅が全壊、ほかに家屋半壊が9戸、道路決壊5箇所、床上浸水4戸、同床下180戸。甲南町も大字深川の庶民住宅に浸水、矢川橋下100mで県道が決壊し、滋賀交通バスが不通となった。
 ・貴生川町では柚川が氾濫し貴生川駅前一带が浸水。貴生川病院は一階窓下まで浸水したので入院患者16名全員を役場二階に収容した。一時は入院患者、付添人等の救いを呼ぶ悲

・中央气象台では14日午前9時全国の測候所に対し「寒冷前線の南下により局地的に100mmを越える雨が降る」と指示報を出した。しかし、台風とちがって不連続線による雨は地形の影響を大きく受け、こんどの雨では京都南部で160mmも降ったが、京都では15mmで、京都府には測候所が1カ所しかなく、盲点をつかれた形となった。
 ・また、地上約3000m付近の大雨を降らせる水蒸気を多く含んだ気塊を観測しなければならならずこれはラジオゾンデで行うが、全国で高層観測を行なっているのは僅か10カ所であり、せめて測候所なみに1県に1ないし3カ所の高層観測点を設けねば局地的な雨は捉えようがない。

・さらに、高層観測点をふやしてもどこで何ミリ降っているかを知るにはレーダが必要だ。レーダ(半径200マイル級)1機を備えるには1億円近くかかるので、いまの气象台の予算では実現にほど遠い。
 ・京都測候所では15日午前3時の観測資料によって京都府南部に対し大雨注意報を午前5時に出し、重ねて

鳴で悲惨な光景をみせた。
 ・柚川筋は午前9時頃から減水し始め正午頃には愁眉を開いた。
 ・水口町立場山(野洲川右岸水口大橋上流2.5km)下の堤防が決壊し床下浸水200戸。
 ・鮎川村降雨量200mm、野洲川ダムのドラムゲートを毎秒100トンがオーバーフロー。
 ・大戸川下流および信楽川、大石川(いづれも瀬田川支川)では、15日未明から刻々増水。大戸川下流では、綾橋、荒戸橋、堂村橋、石居橋が流失、稲津橋半流失、田上石居橋附近一帯田畑70町歩冠水、大石川では小田原町付近で氾濫、床上浸水3戸。
 ・床上浸水した茶間屋村田円次郎さんは「午前2時頃ビシビシというただならぬ音が目覚め、泥棒でもはいたかと思いきや、泥棒でもはいたかと思いきや、泥棒でもはいたかと思いきや、布団の脇まで水が押し寄せてきているのでビックリして、家族を起して避難しました。」と語る。
 ・信楽川も富川町で氾濫、家屋浸水10戸、稲田の浸水150町歩(内土砂埋没30町歩)。埋没した稲田には根こそぎ流されて来た一抱えもある巨石や、何百貫もある巨石がゴロゴロ散乱。

第2回の注意報を午前10時半に発令した。中央气象台のいう14日朝の寒冷前線南下の指示報は不幸にしてキャッチできなかった。京都測候所では現在京都防災気象連絡協議会というものを作り、国鉄、関電、学校、官庁などでも雨量計を設置するなど協力をお願いしたいと思っている。
 ・上記文中の「京都南部で160mm」は1.の京都府田辺土木工営所の総雨量観測値162mmを指しています。

3. 滋賀県、三重県および京都府宇治市の被災状況

(1) 滋賀県の被災状況(昭和28年8月16日滋賀新聞より)

・15日午前6時過ぎ甲賀郡石部町の野洲川頭首工工事現場で西松組従業員4名が工事を始めたと思う間もなく水量が増え始め、気がついたときには工事現場は濁流渦巻く大河のなかにちよつと突き出た岩の頭のようなかたちになってしまい、忽ち1名は押し流されて行方不明になった。残る3名は危うく下流の中州に足場を得て、ここへしがみつき必死に救いを求めたが、飯場に残留従業員は自動車タイヤのチューブを即製の救命袋として投げ渡す以外にはどうす

・後日判明した滋賀県の死者は、多羅尾村44名、石部頭首工1名の計45名。

(2) 三重県上野市の被災状況

・「三重県災害誌」(亀山測候所)によると「昭和28年8月15日の『東近畿大水害による災害復旧に関する陳情書』阿山郡島ヶ原村他23ヶ町村」によると「雷を伴う大豪雨は、山津波と激流を引き起こし、未曾有の大被害を生じるに至り、伝来の美田が瓦礫の川原と化し、道路は寸断され、家屋橋梁は流失し、溜池堤防は決壊し、交通機関は全く杜絶し、人命を喪失した者十有余名、負傷者に至ってはその数二百有余名を算し、物心両面に亘り関係町民の受けた打撃は言語に絶するものがある」(「三重の歴史」新人物往来社)としている。

・「上野市史」年表では「昭和28年8月大水害あり。西山地区で死者14名

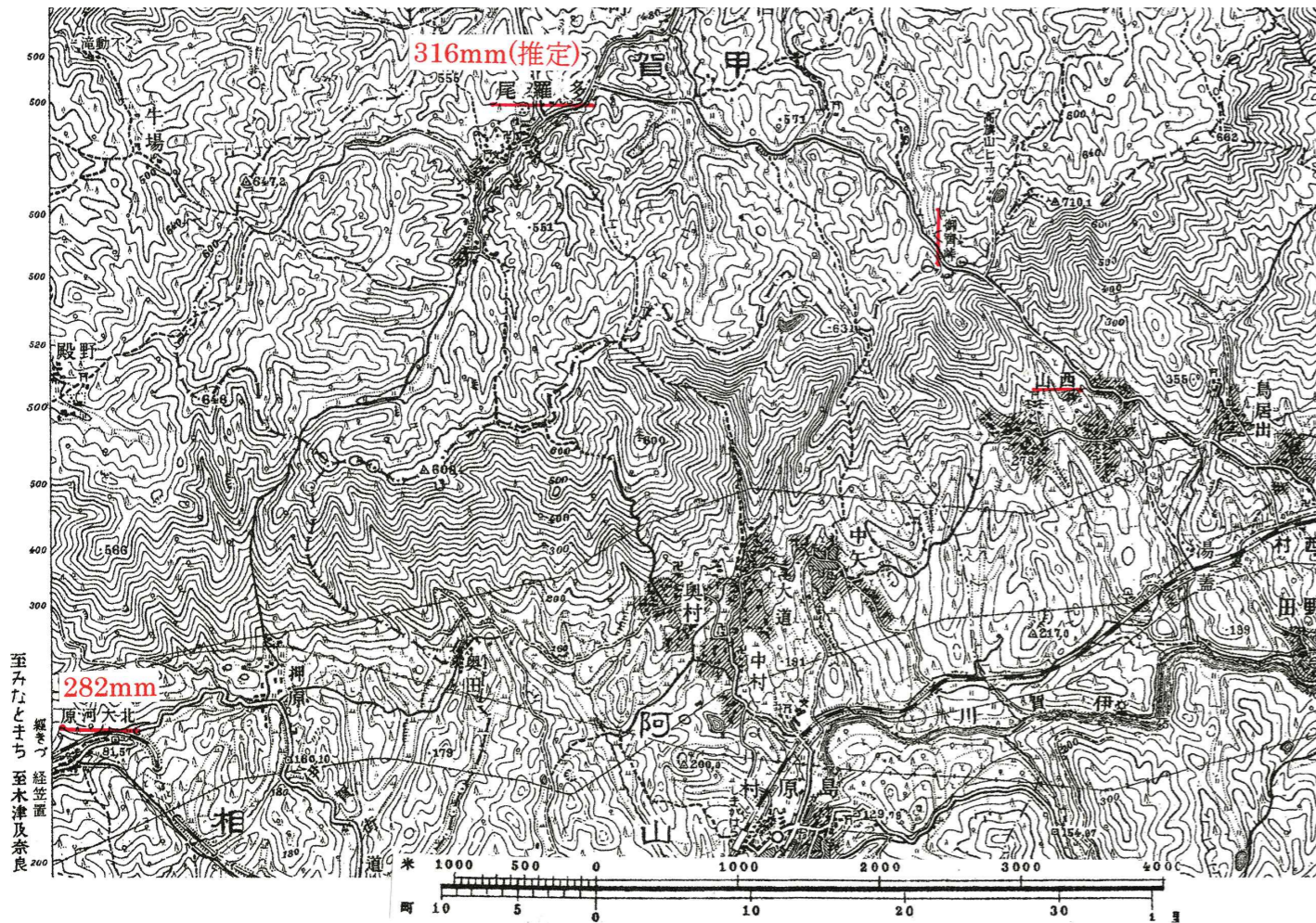
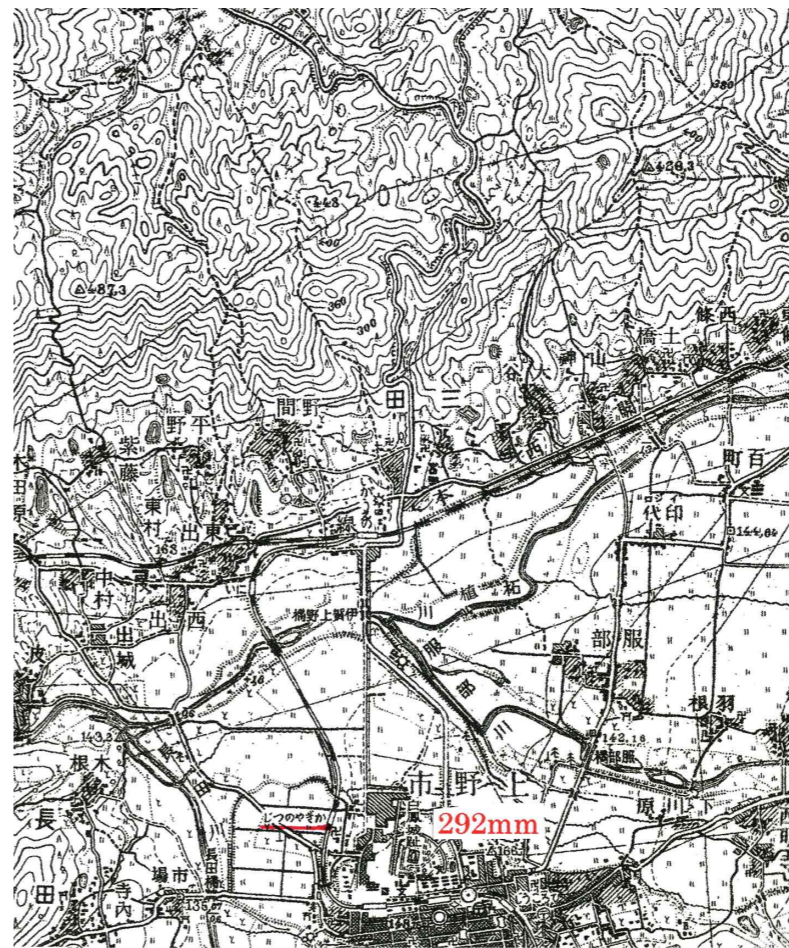


図-1 被災地域(多羅尾、大河原、西山)の地形と総雨量(地理調査所 昭和32年1月30日発行)



その他被害多大」とあり、以上の記録より三重県の死者は14名と推定。
 ・8月17日京都新聞(夕刊)より
 (関西線)加茂―加太間が先ず不通となったが、15日夕加茂―笠置間が開通。柘植―加太間中在家信号所付近の機関車脱線現場も16日午前8時に復旧したので笠置―柘植間のみが不通。
 (3) 京都府宇治市の被災状況(8月16、17(夕刊)、18日京都新聞より)
 ・宇治川隠元橋流失、古川支川名木

川堤防300m決壊、その他人家、田畑の浸水あり。
 ・隠元橋の応急復旧対策の正式決定をみるまで、19日早朝から当分の間、旧隠元橋付近に渡し舟1隻、船頭二人を用意し両地間を連絡することに決定。
 ・(奈良線)山城青谷―上狛間不通、京都―山城青谷間、奈良―木津間折返し運転。山城青谷―上狛間は玉水駅の流失、柘植駅付近の不動川トンネル崩壊で当分の間復旧の見

通しがつかない。木津―上狛間は運転を中止しているが木津川の減水次第で運転再開。

4. 多羅尾氏と多羅尾村

多羅尾氏の先祖は近衛家より分かれ高山氏を名乗っていたが、多羅尾に移り嘉元4(1306)年多羅尾氏を称した。將軍足利義尚が近江の六角高頼を討とうとした長享の役(1487年)では、多羅尾四郎兵衛が六角氏の先鋒として活躍し「甲賀五十三士」の一人として名を留めています。元亀元(1570)年織田信長の攻撃により六角氏が滅ぼされると、信楽の豪族多羅尾四郎兵衛光俊ら甲賀武士は信長に服属し、天正9(1581)年織田信雄の伊賀出陣(伊賀の乱)に際しては、信楽方面からの先陣の物頭として多羅尾光太の名が見えます。父多羅尾光俊、光太は、信長からその功により相伝知行4600石に加え大和、山城、伊賀の諸国において3万石の加恩を受けています。

・天正10年春 信長は東国へ出陣して武田勝頼一門を討ち果たし、功のあった徳川家康には駿河、遠江

両国を進呈し、穴山梅雪には本領(駿河江尻)を安堵しました。その御礼に家康と梅雪が安土へ来ることになり、信長は二人を丁寧に接待しました。
 ・同年5月21日 信長は「このたびは、京都、大阪、奈良、堺をのんびりと御見物なさるとよいでしょう」と言っており、案内者に長谷川秀和をつけて家康一行を送り出しました。
 ・5月29日 信長上洛、本能寺に泊。
 ・同日 徳川家康、穴山梅雪、酒井忠次、本田平八郎忠勝、長谷川秀和ら堺に到着。「上野市史」によるとこのとき既に伊賀忍者服部半蔵も同行していたという。
 ・6月1日 徳川家康は、朝会を今井宗久、昼は天王寺屋宗及、晩は松井友閑と茶会すくめで大変寛いだ1日を過ごす。
 ・6月2日明け方 明智勢は関の声を上げ本能寺に鉄砲を撃ち込む。信長切腹。
 ・同日 家康は、信長が29日に上洛したと聞き、堺を火急に発つて上洛する。道筋は堺から長尾街道を東に、国府で大和川を渡り、東高野街道を北進する。

・本多平八郎忠勝が先発。途中で茶屋四郎次郎清信が荷鞍馬に乗って行くのに出会う。四郎次郎は忠勝に本能寺の件を報告。
 ・二人が引き返すと飯盛山近く(現片町線四条駅東)で家康の一行と出会う(堺―飯盛山7里半)。家康、酒井忠次、本田忠勝が相談し、急ぎ三河に帰ることに決定。信長の付けた案内役長谷川秀一も三河に同行する。一同は地理に詳しい津田主水頭(服部半蔵の偽名か)に道案内を求める。主水頭は「このまま北進し、穂谷川に沿って(現国道307号沿い)右へ、草内の渡し(飯盛山―草内5里)で木津川を渡り、対岸の青谷川を廻り、郷之口から裏白峠を経て朝宮へ進み、中野で右に折れると多羅尾村にでます。今晩は多羅尾光俊の館で宿をとります。ましよう(青谷―多羅尾8里)。」と説明。
 ・家康の同意を得るや半蔵は直ちに単身先発して甲賀に入り、多羅尾村の忍家(甲賀五十三家の一)多羅尾四郎兵衛光弘(光俊の三男)を訪ねてその協力を得、高畑山頂(773m)、甲賀町神、加太の北

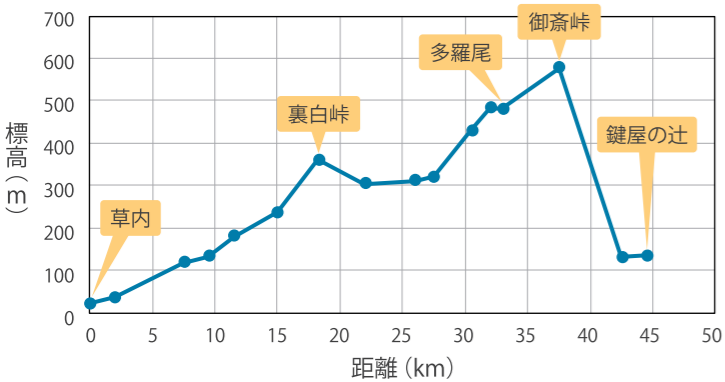


図-2 徳川家康一行の辿った道のりと峠

5500m)から狼煙を挙げて伊賀、甲賀の忍者300余名を招集し、翌日御斎峠で家康一行を迎える手筈を整える。家康一行は多羅尾光俊の馳走をえて一泊。
 ・6月3日早晩 御斎峠で家康を山籠に乗せ(御斎峠―柘植川1里半)、半蔵が籠脇を警護しながら、一揆の待ち受ける加太の難所を切り抜け、関を経て白子浜から船に乗る。(3日は船中泊か)
 ・6月4日 家康、三河岡崎城着、半蔵に忍者300余名をそっくり召



写真-2 多羅尾光道村長

し抱えて徳川家の隠密団として使用する旨を伝える。
 ・家康より少し遅れて草内の渡しに着いた穴山梅雪は一揆により殺される。
 ・慶長5(1600)年、家康、多羅尾光俊の子光太に二百人扶持を与え信楽代官とする。それ以後多羅尾家は信楽代官を268年間努めることになる。

5. 多羅尾村の被災状況

明治23年、甲賀郡多羅尾村は187戸、1031人でしたが、昭和29年には233戸、1144人となりました。そして5カ町村が合併し信楽町大字多羅尾となりました。

多羅尾村は、国鉄信楽線の終点信楽駅から大戸川に沿って南西に遡ること10kmの小村ですが、そこから西に峠を越えれば和東川の源流に、また東南の御斎峠を越えれば上野城下や、伊勢神宮にも通じています。さらに和東川を下れば木屋浜から木津川舟運を利用できるという便利な地理的環境にあります。

つぎに「多羅尾村昭和六水害誌」(平成元年一月十三日多羅尾区編纂)

により、多羅尾村の被災状況について詳しく見ていくことにしましょう。

・8月14日は、祖先を祭るお盆の日であった。この年はお盆の前日より雨降りの日が多く、14日も夕方から雨が降ってきて午後10時頃には相当降っていたが、11時頃には夕立のようにひどい大雨となった。それから引き続き翌15日午前4時半頃まで大変な大雨となり、山津波の起きたのは午前5時丁度、夜の引き明け時で、その時の雨は天から雨の棒が降ってくるように見えた。

山津波の時は紫の電光が走り、鳴動とも、地震とも、大きな雷とも分らないものすごい瞬間の出来事であった。それと同時に山の斜面が樹木の立ったまま川や田や谷間に「ズウンズウン」と崩れ落ち、崩れ落ちた山のため川は堰き止められ、一面の泥海となり、またそれが切れて波の如く流れて行く様は正に津波の如くであった。この豪雨は後から判明した事であるが、京都府湯船村の方から鈴鹿山脈に添って降ったらしく、多羅尾村では上出、西出方面から御斎峠の方へ通過したようである。神有、五瀬、大沢方面は比較的



写真-3 被災家屋の遺体捜索

体が消防団員により小学校講堂に運びこまれる。悲惨なることこの上なし。死者の姿を見た遺族はそれに取られず悲嘆、見るに忍びなし。

・15日夜半 国警県本部機動隊や日赤大津支社救護班、甲賀病院より医師、看護婦、県事務所員など、雲井より道なき道を突破して来村、休む間もなく負傷者の手当てをされる。感謝のほかなし。

・16日 村長より「村民各位に次ぐ」の告示

「自然の猛威は遂に我が村を襲った。一瞬にして44名の尊い人命を失い、

被害は少なかった。

多羅尾にある彦根測候所の雨量器は300mmで満杯(250mmで満杯との説もある)になっており、雨量器より外へ漏れた雨量は分からず、多分400mm、或はそれ以上降っていたであろうと言われている。このため橋という橋は皆流され、道は寸断され、実りを待つ田地は泥海の下に埋没、家は流されるか埋没し、見る影もない大修羅場と化してしまった。

夜が明け雨は止む。自然の猛威に村人はただ啞然とするばかりであった。消防団はいち早く午前零時頃に



写真-1 役場の板場に張り出された村長告示と遺体発掘のお知らせ

非常招集され警戒にあたっていたが、自然の猛威には如何ともなすすべもなかった。夜明けとともに家屋の下敷きとなった人の救助を求める報や行方不明者の報告、誰々さんの家が流れてない、あそここの家も流れている、誰々さんは家の下敷きになって助けを求めているから早く来てくれ、と矢継ぎ早に役場へ急報される。責任の立場にある村長を初め役場吏員、村議、農協各団体長など、道が寸断され橋無きため、なかなか集まらない。新田方面の状況は全く分からない。

漸く午前7時頃、責任ある立場にあるもの役場に揃うも、ただ災害が大きいため茫然自失するのみであった。次々と惨状を聞くが、実際どうしたらよいかただ呆然とするのみであった。そうこうしている内にも誰々さんの家も流された、誰々さんの家は埋没した、誰かさんは下敷きになって大怪我をした、との報告が続く、ただお互いに右往、左往するのみであった。

村長は電話が不通のためとにかく他に救助を求めるべく、消防団に信楽警察署までこの惨状を報告、救助

耕地も殆ど無くした。我が村にとっては未曾有の出来事である。しかしながら、今気を落としてはいけない。再起し得るか否かの境目だ。発奮興起すべき時である。昨夜は県庁地方事務所、国警、日赤、甲賀病院を初め、隣接町村の各機関、団体は道なき山を踏み分け夜を徹して来村され、救助の手を差し延べられている。我々はそのご厚意に深く感謝し、この難関を切り抜けようではないか。

村民の皆様、この際、この時、自ら立ち得るものは他に頼らずに自ら立とう。まず家を失い、親を失い子を失った人に心から手を差し延べよう。そして全村協力一致して我が村の再建に勇往邁進しようではありませんか。」

八月十六日 村長 多羅尾光道

・16日午後3時 24遺体の仮埋葬を行う。夜10時江田まで流失の1死体が運ばれ、8体を小学校講堂に収容す。

・17日 本日も遺体発掘に全力を集中した結果、午後15体の仮埋葬をなし、これで39体を発見、5体が未発見となる。地方事務所の手配による

救援米その他の物資の運搬が雲井より徒歩によって開始される。電通水口施設区の不眠不休の作業により、本日全村に電話開通す。

・18日 25日 遺体発見5体。
 ・25日 天皇陛下より本村の災害に對し金一封を下賜された。

・26日 電灯が点きラジオが聞ける。

・9月11日 建設省の検査官・事務官および県係員来村災害査定

・25日 台風13号(5313号)紀伊半島に上陸、全村民避難体制をとる。応急復旧した村内道路の大半を流失。

・28日 多羅尾光道村長、2回目の「村民に告ぐ」を掲示。「……これまでに救援に来て下さった村々は皆今度の水害で同様の災害を被られた。お気の毒に堪えない。もう救援をお願いするところでない。我々は我々の手でやり遂げなければならない。頑張ろう、働こう、そして建設へ復興へと力強く邁進しよう。」

以後、昭和29年には5カ町村が合併し、多羅尾村は信楽町大字多羅尾となり、災害復旧にも弾みが付くこととなります。

水都大阪と幻の大阪大国技館(5)

水都の会城北川プロジェクト(代表 藤井 薫)

GO!GO!豪栄道

去る9月の大相撲秋場所では、大関豪栄道が、カド番から一転、史上初の劇的な全勝優勝を飾り、日本中を沸かせました。大阪出身力士の優勝としては3人目、実に86年ぶりという快挙でした。10月16日に地元



豪栄道豪太郎(写真提供:寝屋川市)

の寝屋川でパレードも行われ、大阪中が熱狂的な盛り上がりを見せたのも記憶に新しいものがあります。
本稿では、戦前、大阪市旭区関目町(現城東区古市)にあった2万5千人収容の巨大な「幻の大阪大国技館」建設にまつわる謎についてご紹介してき

山錦善治郎

関脇山錦(本名 山田善次郎)は、明治31年、大阪市北区大淀南生まれ。今から86年前の昭和5年(1930年)の大相撲夏場所で優勝。出足の鋭い、猪突猛進型の力士だったよう



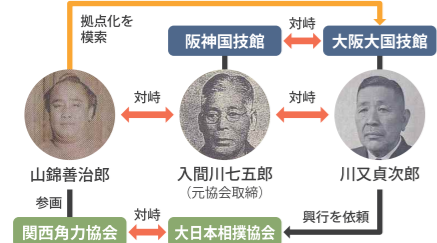
山錦善治郎

で、当時前頭5枚目でした。この明治以降で2人目の大阪出身力士の優勝は、奇しくも豪栄道と同様、全勝優勝(当時は1場所11日)でした。きっと当時の大阪のタニマチ筋も、今年に負けられないぐらいの盛り上がりを見せたことでしょう。

山錦は関西大学から出羽海部屋に入門した学生相撲出身力士第一号で、インテリ力士の先駆けともいえます。しかし、昭和5年に華々しい全勝優勝を飾ったあと、大きな事件に巻き込まれ、数奇な運命を辿ります。

対峙する山錦と入間川

昭和7年1月、東京の中華料理店「春秋園」に集まった関脇天竜や山錦を中心とした力士達は、相撲協会幹部への優遇ばかり目立つ相撲茶屋制度や年寄制度の廃止を初めとした力士の待遇



昭和11年頃の相撲界及び国技館建設計画の関連図

一旦頓挫します。あるいは、大阪での新国技館建設に脅威を感じた

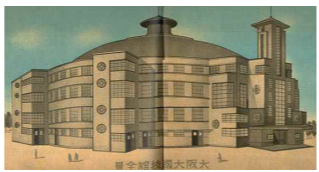
関西角力協会側は、このような中、昭和12年6月、旭区関目町において大阪大国技館が竣工。大日本相撲協会による開館記念興行は、双葉山など人気力士らの華々しい活躍により連日大人気を博します。

大阪大国技館完成とその影響

このように、大阪と尼崎の巨大国技館ともなれば、大阪と尼崎のような至近距離では、いかに人気



阪神国技館の完成予想図(大阪毎日新聞 S11.8)



大阪大国技館

大阪の国技館建設計画と大阪を舞台に改革の志を遂げようとした山錦ら力士により大きく揺れ動いた大戦前の日本の相撲界は、この後いよいよ日本相撲の黄金期「双葉山時代」を迎えることとなります。「巨大国技館建設の謎」続きは次号にて。

「大阪大国技館」写真提供:大阪府立大学21世紀科学研究機構 教授 橋爪紳也&橋爪紳也コレクション



相撲改革をめざし断髪した天竜ほか大日本関西角力協会の力士達

砂防堰堤

（兵庫県近代砂防事業発祥の地
（武庫川支川））

下流の都市を守る谷間の鎧

太多田川砂防堰堤群

おお た だ がわ さ ほう えん てい ぐん

六甲山系の東端に発し武庫川へと流れる西宮市の太多田川。武庫川右支川の太多田川と宝塚市の逆瀬川の上流域には「千石ズリ」と呼ばれる大崩落地があるため、大雨が降ると大量の土砂を武庫川に押し出し、武庫川下流部では河床の上昇、洪水による氾濫が繰り返されていた。1892（明治25）年の水害を契機に、武庫川の治水対策の一環として土砂流出の著しい太多田川、逆瀬川において明治32年から山腹工や堰堤工を主体とした砂防工事が始まる。太多田川では大正年間までは上流部の緑化対策としての山腹工、1932（昭和7）年から堰堤工の建設が本格化したという。

太多田川右支川の座頭谷川には100基あまりの砂防堰堤があり、昭和13年7月の神戸市及び阪神地区で発生した「阪神大水害」では表六甲河川のような壊滅的な被害は免れる。平成7年1月17日に起きた兵庫県南部地震の斜面崩壊を契機に、新たな土砂対策として太多田川と座頭谷川の合流点付近を「遊砂地」として位置づけた透過型の大暗渠堰堤「蓬莱峡砂防堰堤」が平成14年に完成する。



有馬街道側から見た蓬莱峡堰堤。S字型の管理用通路の下には、太多田川（手前）と座頭谷川（奥）が流れている。近くで見ると「万里の長城」を思わせる。



論鶴羽橋から逆瀬川の源流方向の「ゆずり葉緑地」を望む。上流の「逆瀬川砂防ふれあいゾーン」には、昭和初期施工の鎧積堰堤のほか、谷石積堰堤、自然石積堰堤の工法で築造された砂防堰堤が続く。緑地内のトーチは砂防事業百年記念の「砂防のモニュメント」。また「阪神淡路大震災宝塚鎮魂の碑」が、ここに建立されている。



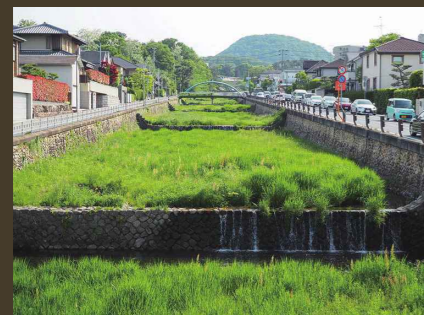
座頭谷川下流からの「蓬莱峡堰堤（最上部の構造物）」。太多田川と三つの河川の流心に対して直角に、また土砂撤去などに用いるため、天端を管理用通路としているため、全体構造は滑らかな曲線を描くS字型になっている。

赤木正雄博士ゆかりの「兵庫県砂防発祥の地」

逆瀬川砂防堰堤

六甲山系東端付近の小笠峠を源流とし、譲葉山の南を流れ武庫川に注ぐ宝塚市の逆瀬川。1895（明治28）年、兵庫県は逆瀬川上流域の山の斜面にクロマツなどを植える県下初の砂防工事（山腹工）に着手、明治32年以降には石積み砂防堰堤を築造したとされる。逆瀬川での工事着手を皮切りに、その後県下各地で砂防工事が進められたことから赤木正雄博士ゆかりの「兵庫県の砂防発祥の地」とされている。

初期の砂防事業で上流部での発生源対策は一定の成果を上げたが、中下流部の土砂移動は治らず、明治、大正期の逆瀬川は川幅が200mから300mあり、「逆瀬川砂漠」と呼ばれた。1928（昭和3）年から昭和9年かけて我が国初の流路工の工事が行われ、



阪急逆瀬川駅側から西側の甲山方向を望む逆瀬川。豊岡出身の赤木正雄博士の指導で縦横浸食を防ぎ川筋を固定するため、我が国初の流路工が造られた。